

14th SHINTOKU

1996—→2009

# 空想の森映画祭

■会期

## 2009.9.19.sat.-22.tue.

■会場

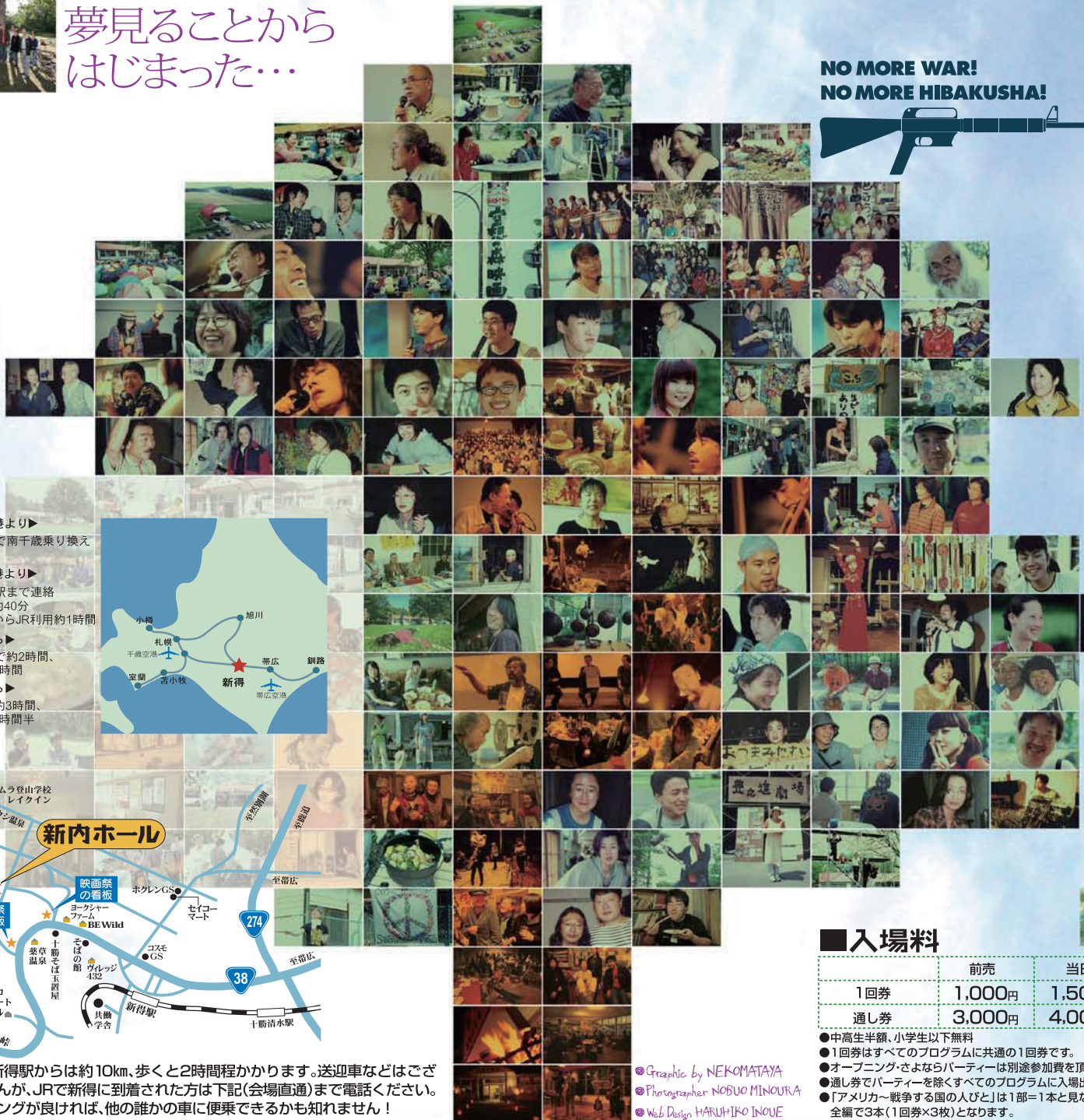
## 新内ホール

(北海道新得町\*旧新内小学校)



すべては  
夢見ることから  
はじまった...

NO MORE WAR!  
NO MORE HIBAKUSHA!



千歳空港より▶  
JR特急で南千歳乗り換え  
約2時間

帯広空港より▶  
JR帯広駅まで連絡  
バスで約40分  
帯広駅からJR利用約1時間

札幌から▶  
JR特急で約2時間、  
車で約4時間

旭川から▶  
JR利用約3時間、  
車で約2時間半



★JR新得駅からは約10km、歩くで2時間程かかります。送迎車などはござい  
ませんが、JRで新得に到着された方は下記(会場直通)まで電話ください。  
タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!

●Graphic by NEKOMATAYA  
●Photographer NOBUO MINOURA  
●Web Design HARUHIKO INOUE

### ■入場料

	前売	当日
1回券	1,000円	1,500円
通し券	3,000円	4,000円

- 中高校生半額、小学生以下無料
- 1回券はすべてのプログラムに共通の1回券です。
- オープニング・さよならパーティーは別途参加費を頂きます。
- 通し券でパーティーを除くすべてのプログラムに入場出来ます。
- 「アメリカ〜戦争する国の人びと」は1部=1本と見なします。全編で3本(1回券×3枚)となります。

■お問い合わせ ☎0156-65-3911 (映画祭事務局)  
■会場直通(会期中のみ) ☎0156-64-3161 (新内ホール)  
または ☎090-8278-6839

主催 ■SHINTOKU 空想の森映画祭実行委員会  
北海道新聞帯広支社

<http://kuusunomori.com/>

### ■出店者募集中!

映画祭会期中、会場でお店を出してくれる方を募集して  
います。のんびり祭りを楽しみながら、自慢の一品  
を販売! 美味いモノ大歓迎です。詳しくは下記まで!

### ■ボランティア STAFF 募集中!

会場設営・受付係り・カフェの店番など...手伝っていただけ  
る方を募集中です。ギャラは出ませんが、映画監督など、普段な  
かなか出会う機会のない人種とお友達になれるかも?...と  
にかく一緒に盛り上げれば楽しいことは間違いなしです!  
(ご連絡)090-6216-1528 / ねこまたや・のだ

### ■前売券取扱

- 新得町 ●新得町教育委員会 ☎0156-64-5111
- 相馬商店 ☎0156-64-5055 / JR新得駅前
  - BE Wild ☎0156-64-5200 / R38号沿い
- 帯広市 ●チェックびあ ☎0155-27-3550 / 藤丸5階
- FLOWMOTION ☎0155-21-5506 / 西5南13
  - サイクルブック稲田店 ☎0155-48-4407 / 西12南34
- 音更町 ●のんびり屋 ☎0155-30-8022 / 字下土幌
- 上士幌町 ●あんだらや ☎01564-2-4589 / 北居辺
- 旭川市 ●こども富貴堂 ☎0166-25-3169 / 7条8丁目
- 札幌市 ●4ラブリイガイド ☎011-251-5574 / 中央区南1西4
- みんたる ☎011-756-3600 / 北区北14西3

# 第14回 SHINTOKU 空想の森映画祭プログラム

9月19(日)

19:00~ Opening Party

■共働学舎のチーズとワイン  
■「アメリカン戦争をする国の人々(長〜い予告編・25min)」  
& 撮影秘話 / 藤本監督 + 影山あさ子

9月20(日)

10:00~11:36  
「まぶしい嘘」  
■長沼里奈監督作品・2007年  
66min+監督フリートーク

12:00~21:00 **完全版**  
「アメリカ ~戦争する国の人びと」  
■藤本幸久監督作品・8時間14分(494min) / 途中2回休憩  
(第1部)第1話・高校 / 第2話・イラク戦死 (140min)  
(第2部)第4話・先住民 / 第5話・見えない人びと / 第6話・ベトナムの記憶 (176min)  
(第3部)第7話・抵抗 / 第8話・それぞれの春 (178min)

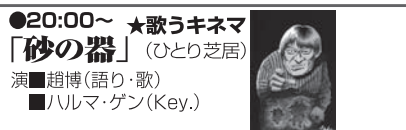
15:30~18:00  
「土徳〜焼跡地に生かされて」  
■青原さとし監督作品・2003年・118min  
+監督フリートーク

9月21(月)

10:00~12:07  
「ブライアンと仲間たち  
パラメントスクエアSWI」  
■早川由美子監督作品・2009年  
97min+監督フリートーク

13:00~15:08  
「One Shot One Kill」  
~兵士になるということ~  
■藤本幸久監督作品・108min

20:00~ ★歌うキネマ  
「砂の器」 (ひとり芝居)  
演 趙博 (語り・歌)  
■ハルマ・ゲン (Key.)



9月22(火)

10:00~12:30  
「ナナイの涙」  
■中井信介監督作品  
2009年・110min  
+監督フリートーク

13:30~16:00  
「空想の森」  
■田代陽子監督作品  
2008年・129min  
+監督フリートーク

17:00~19:00  
「風の丘を越えて  
西便制(ソビョンジェ)」  
★歌うキネマ(ひとり芝居)

20:00~ さよならParty  
〈お願い〉なるべくマイ普・マイカップなどをご持参ください。またゴミは極力お持ち帰りください。ゴミ減量大作戦!  
空想の森映画祭はすべてボランティア・スタッフで運営しています。ボランティアならではの楽しさや喜びあり、一緒にやりませんか! 冷やかしもOK! 勿論マジ参加歓迎!!



**「まぶしい嘘」** ●2007年/日本/66分  
スタッフ/キャスト ●監督:長沼里奈 出演:飯塚俊太郎 / 成田愛裕美 / 藤野野瑠 / 青木真代 / 高橋理通子  
(あらすじ)一人アトリエでモノクロの絵を描く画家がいた。そこへ顔を描いて欲しいという女が訪れる。彼女はもうすぐ失明する。そして二人は恋をする。毎日女から届けられる花を見て画家は色を思い出している。そして出来上がった絵を見た女は画家に涙を流す。  
プロフィール ●札幌を拠点に活動する映画制作団体「映蔵庫」を主宰。独特な色彩感による映像美にこだわりを持つ。「丹南な庭」(02)が南仏パリスにて開催のAsian Cinema & Culture Festival 正式出品。



**「アメリカン戦争する国の人びと」** ●2009年/日本/494分  
監督 藤本幸久 / 撮影 栗原良介 / インタビュー 影山あさ子 / コーディネーター 加藤鈴子 / 原原顕志 / 編集 藤本幸久 / 栗原良介 / 翻訳・字幕 加藤鈴子 / 影山あさ子 / 配給 影山事務所 / 製作・著作 藤本の映画社  
2006~08年にかけて、200日間アメリカを旅し、撮影を続けた。アメリカの戦争と若者が、そのテーマだ。取材テープは、300時間を超え、1年間の編集で3本の長編ドキュメンタリーとなった。「アメリカかばんざい」、「ONE SHOT ONE KILL」、「アメリカン戦争する国の人びと」の3作品だ。

「アメリカン戦争する国の人びと」は、200日の旅の総集編であり、8つの物語で構成されている。①高校(30分)②イラク戦争(79分)③戦死(31分)④先住民(42分)⑤見えない人びと(68分)⑥ベトナムの記憶(66分)⑦抵抗(109分)⑧それぞれの春(69分)という8つの物語がそれぞれのエピソードとして独立しながら、アメリカの戦争と若者を巡る交響曲となっている。ベトナム戦争からイラク戦争まで、アメリカの若者たちは、戦場を歩いてきたのか、戦争を経験した若者たちは、その後どんな人生を生きているのか。つまり、戦争する国とはどんな国なのか。マスコミの伝えないアメリカの姿が胸に刺さってくる。  
プロフィール ●藤本 幸久 1954年、三重県四日市市生まれ。早稲田大学卒業後、東京でドキュメンタリー映画の製作に参加。1995年、上映活動で訪れたことをきっかけに新得町に移住。活動の拠点を北海道に移す。監督作品に「教えられなかった戦争」「森と水のゆめ」「闇を掘る」等。新得空想の森映画祭実行委員長。



**「ブライアンと仲間たち パラメントスクエアSWI」** ●2009年/イギリス・日本/DVD/カラー/97min  
監督 早川由美子 / 撮影 早川由美子・Paul Wright・Brian Haw  
イギリス反戦活動の生けるシンボル、ブライアン・ハウと彼のサポーターたちを、約1年半に渡って追い続けたドキュメンタリー。ロンドンの国会前の広場にテントを張って生活しながら、8年以上1日も休まず家にも帰らず、英米政府のテロ撲滅策に反対するブライアン。映画は、ブライアンと彼のカラフルなサポーターたち(これまでの生活を捨て、彼と共に生活することを誓ったシングルマザー、半世紀以上反戦活動を続けるおおいさん、エキセントリックな人形アーティストなど)のインタビュー映像に加え、政府や警察の圧力により表現の自由が奪われていく現状と、それに対するユモア溢れる精神で果敢に対抗する人々の姿を伝える。  
プロフィール ●75年東京都出身。成蹊大学法学部、London School of Journalism卒業。ロンドンでジャーナリズムを学ぶ傍ら、独学で映像製作を始める。2009年日本ジャーナリスト会議黒田清JJC新人賞受賞作品。



**「ONE SHOT ONE KILL」** ●2009年/日本/108min  
ベトナムからイラクまで、アメリカの若者たちの戦争体験は、ひとつの事実を物語っている。それは、「人は、人を殺せるようにはできていない」ということだ。それゆえ多くの若者たちがPTSDで苦しむことになる。だが、戦争は今日も続いている。では、どのようにすれば、普通の若者が戦場の人を殺せるようになるのか。アメリカ海兵隊2週間キャンプの12週間に密着した。



**「土徳〜焼跡地に生かされて」** ●2003年/DV/118min  
構成・撮影・語り 青原さとし  
ヒロシマは古くから安否宮庭と呼ばれ、浄土真宗のお寺の多い地域である。広島市中央区十日市町にある真宗のお寺・真光寺に生まれた映像作家・青原さとしは、古い因習にとどまり続ける戦前生まれの父に抵抗を感じていたが、父の死と相前後してカメラを回し始め、両親や地域の人々の悲惨な原爆体験と戦後の復興の歩みを探っている。  
父の語った人生観「土徳=地域の恩恵」をキーワードに、現在から過去、ヒロシマから広島へ、ひとつの家史から、個・家族・町の間を問う種々の歴史ドキュメンタリー。今年4月初公開から6年を経て「Japan Film Festival Los Angeles 2009」へ出品。初の海外及びアメリカ上映が実現した。  
土徳の世界: <http://dotoku.ne/> ブログ: <http://blog.goo.ne.jp/hpf2009>



**「ナナイの涙」** ●2009年/DV/110min 監督 中井信介  
「ナナイ」とはタガログ語で「お母さん」の意味。この映画のタイトルは「お母さんの涙」です。舞台は91年まで米海軍基地のあったフィリピンのオロンガポ市。お母さんたちは若い頃、米兵相手のクラブバーで働き、米兵と恋に落ち、子どもを授かったが、恋人の米兵とは、本当の意味での家族にはなれなかった。この映画で描いているのは、米兵によって傷つけられた女性の姿ばかりではなく、父親に棄てられた母子が迎った人生の悲劇。責任は、父親としての責任を果たさず兵士たちを内部に抱えながら何の行動も起こさないアメリカ政府にもあるのです。  
中井信介プロフィール ●67年東京都生まれ。96年、第1回アジアウェブ賞受賞。04年、ドキュメンタリー映画「クオリ」, 06年より韓国「テチュ里」に暮らしながら撮影、RKB毎日放送制作「テチュ里の灯火」撮影。短編ドキュメンタリー「がんばれ! ファンセウル」で国際人権教材奨励事業AWARD2006を受賞。

## 「空想の森」 農ある暮らし。～重ねた時間と陽の匂い～

●2008年/日本/129分 監督・撮影・編集 田代陽子  
1996年、1回目の空想の森映画祭で映画と出会い、ここに暮らす人と出会い、私は映画の作り手になった。「空想の森」はこの映画祭から生まれた映画だ。  
2008年、ようやくお披露目上映ができた。完成した今も、私には大きな課題がある。一人でも多くの人に観ていただくには、どうしたらいいか。日々、試行錯誤で全国を上映して歩いている。各地の上映会場でお客さんといっしょに観ることで、私なりにわかってきたことがある。映画はライブだということ。劇場や映画祭で観てくれた方が、「自分の町でも上映したい!」と次第に自主上映を開催してくれる人が増えてきた。これが何より嬉しい。映画活動の過程で、私は本当の意味での勉強をしている。これからも、とびきりの喜び・面白さをお客さん・カメラの前で立ってくださったスタッフ・応援団の人たち、そして上映してくれる人々と共に味わいたい。2009年、空想の森映画祭での上映を、皆さんと共に大いに楽しもうと思う。  
「空想の森」監督 田代陽子  
〈公式サイト〉  
<http://www.soramori.net/>  
出品映画祭 ●あいち国際女性映画祭2008 ●高崎映画祭2009 ●あおもり映画祭2009 ●福岡アジア映画祭2009

## 「歌うキネマ」とは?

★故・マルセオ太郎の至芸「スクリーンのない映画館」に触発され、惚れ込み・教えられ、そして私淑したバギやんが、コトバ・ウタ・ミプリの曼陀羅をステージ上に映かせる「歌うキネマ」～それは映画と一人芝居の幸せな出会いであり、講談や落語といった語り芸の手法と、パンソリやジャズなどの音楽的要素を織り込んだバギやん独自の世界です。上映会ではありません。決して…。  
プロフィール ●バギやん(趙博/Cho Bak)  
1956年大阪府西成区生まれ、韓国籍の音楽家「在日関西人」。コンサート・ライブ・講演会:「歌うキネマ」などで各地を行脚。●著書「英語がわかる」「僕は在日関西人」「夢・葬送」「CD「*恨*」歌集」「ベスト30」「音魂言霊」など多数。 <公式サイト <http://fanto.org>>

## 「砂の器」作品紹介

松本清張の小説を、野村芳太郎監督、橋本忍・山田洋次脚本で、1974年松竹が映画化。昭和46年6月、国鉄蒲田操車場構内で起きた殺人事件の捜査は、秋田、島根、伊勢、石川、大阪へと広がっていった。ベテラン刑事・今西(丹波哲郎)と若手刑事・吉村[森田健作]の執念で、天才音楽家・和賀英良(ハルマ)が容疑者として浮かぶ。しかし、その背景にはハンセン病に対する差別ゆえに故郷を捨てなければならなかった親子の姿があった…。映画が小説を越えたと評された、戦後日本映画を代表する秀作。 ■ピアノ演奏:ハルマ・ゲン

## 「風の丘を越えて/西便制(ソビョンジェ)」作品紹介

韓国映画ブームの火付け役となった作品で、1993年公開(日本では翌年)。解放直後、ユボン(父)、ソンファ(姉)、トンホ(弟)、血の繋がりのない3人の親子は、パンソリの修行をしながら各地で放浪の旅を続けていた。「時代遅れでキツイだけの」パンソリ修行に絶えきれず、トンホは逃走する。ユボンはソンファの声に「恨(ハン)」を宿らせ、いつの日か名唱になるようにと、漢方薬で娘の目を見えなくさせてしまう。「恨」に埋もれることなく「恨」を越えて唄う…修行の中でユボンが逝き、ソンファは一人ぼっちになる。二十数年ぶりのある日、姉と弟はまみえるのだが、「恨」を越えて再会した二人は…全編に古典民謡とパンソリが流れ、「韓国人は誰か」を根源的に問いながら、見事にそれを表出した名作。韓国民主化運動、民衆文化運動の結実とも言える映画。監督:イム・グォンテク。主演:キム・ミョンゴン、オ・ジョンヘ。  
■民俗楽器演奏:朴根鐘、朱宝賢  
■シンセサイザー演奏:ハルマ・ゲン

★JR新得駅から会場までは約10km、歩くで2時間程かかります。公共交通機関はなく、送迎車などもございませんが、JRで新得に到着された方は下記(会場直通)まで電話ください。タイミングが良ければ、他の誰かの車に便乗できるかも知れません!

■お問い合わせ ☎0156-65-3911 (映画祭事務局)  
■会場直通(会期中のみ) ☎0156-64-3161 (新内ホール)  
または ☎090-8278-6839  
<http://kuusunomori.com/>

